

令和2年度使用小学校用教科用図書採択結果等について

採択地区名 三原市

種 目	発 行 者	採 択 理 由
国 語	東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末資料の構成が分かりやすく、学習した内容や大事なポイントなどを見返しやすい。 ・全ての単元が「つかむ」→「取り組む」→「ふり返る」の流れになっていることによって、主体的・対話的で深い学びを促す展開となっている。 ・【言葉の力】に目標があり、【生かそう】に他教科等や実生活で学びが使える場面が紹介されている。 ・防災、平和など児童が将来にわたって向き合うべき諸課題を扱う教材や題材が取り上げられている。
書 写	東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ・書写で身に付けさせたい知識・技能「書写のかぎ(何を学ぶのか)」を核とした課題発見・解決型の学習(どのように学ぶのか)が仕込まれている。毛筆教材は、硬筆から「書写のかぎ」を発見させ、日常書いている文字をよりよく書こうとする意識を高めるようにしている。 ・ワイド版の教科書であることから、1・2年生では教科書に直接書き込んで学習する部分が多く設定されており、学んだことをすぐ活用できるようにしている。 ・知識・技能を習得する単元を学習した後に、他教科等や日常生活において活用する単元「生活に広げよう」を配置し、習得と活用を効果的に組み合わせることで書写の力の定着を図っている。
社 会	東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決的な学習の道筋が明確に示されており、自学・自習に適している。 ・学習のまとめにおいて、多様な活動が例示され、お互いの考えを深めるような工夫がされている。 ・社会的な見方・考え方を広げる4つの視点・方法(「広がり」「時間」「関係するところ」「くらべる、分ける、まとめる、つなげる」)を端的に示している。 ・児童の学習段階・発達段階に適した文章表現やグラフの提示がある。 ・学習内容を適切に表現する活動例が15例あり、3社の中で最も多い。 ・割合について学んでいない児童でも、日本の国土の割合を理解できるような視覚的支援がある。
地 図	帝国書院	<ul style="list-style-type: none"> ・全般にわたって『地図マスターへの道』において、学び方や調べ方等の簡単な作業を指示されており、主体的に地図に向き合う態度や自主学習の視点を培うことができる。 ・他の発行者が陸の高さや海の深さの段階を17段階としている一方で、本発行者は13段階に抑えているため、高低差が視覚的に判断しやすい。また、等高線を薄い色で表示しているため段階が判断しやすくなっている。 ・『瀬戸内海周辺』というページを設けているため、広島県内の市町名はもちろんのこと、市町村合併以前の地名も分かりやすく記載されている。また、3年生が地図を使用する際に重要となる、三原市と近隣市町との位置関係が把握しやすくなっている。 ・『日本の自然災害と防災(1)(2)』を4ページにわたって掲載するなど、三原市の防災への課題意識を促しやすい。 ・『日本の領土とそのまわり』において、東西南北の端の島、北方領土、尖閣諸島、竹島を、位置を示すとともに、写真入りで紹介しているため、国土への意識を培いやすい。

算 数	東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ・「単元プロローグ」では、場面絵で興味をひき、考える素地をつくってから単元目標に目を向けさせている。 ・第1学年の入門期に、ノートと教科書を一体化し、書きこみや数図ブロック操作ができる。 ・1年生のスタートプログラムを意識し、初期段階の教科書がワーク式の大判になっている。入門期の接続を意識して、使いやすい教科書に大きく変えていることは、効果的である。 ・数学的活動が丁寧を示され、児童はそれに沿って活動を進めることができ、集団でも、個別でも指導が徹底しやすく、理解しやすい。 ・授業開きで行う「学びのとびら」を設定し、問題解決の過程における大切な視点やノートづくりのポイントを提示している。また、問題解決学習の流れを可視化した「今日の深い学び」を全学年で13例、ノートの指導例と共に掲載している。 ・「まとめ」が一時間毎に示された配列により、具体的な思考の視点が明らかになり、児童が習得しやすい工夫がなされている。 ・「対話の視点の明示」などで説明への具体的方法を示し、振り返り活動をきちんと位置付けている。
理 科	東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ・判が他社と比べて大きいと、フォント（デジタル教科書体）が大きく、見やすいものになっている。 ・いろいろな国の児童たちが紙面に登場しており、グローバルな感じを受ける。 ・3・4年は、単元導入を3ページ構成にして、導入の体験や写真資料をもとに、自由に発想し、児童の思いから「主体的な学び」をスタートできるようにしている。 ・「対話的な学び」を促す工夫がある。「オモテ面」で児童自らが考えた後、ページをめくった「ウラ面」で、対話を通して思考を広げ、深めるという構成になっている。お互いに意見交換し、議論する中で、多様性を尊重する態度や、他者と関わりながら問題解決しようとする態度を育成している。 ・自分で学習が進められるように、発展の内容や実験・観察が紹介してある。 ・5・6年の「理科の広場」と「学びを生かして深めよう」では、働く人へのインタビュー形式のコラム資料を数多く取り上げている。働く人の仕事に対する思いを読む中で、理科の学びと自らの将来との関連を捉え、学ぶ意欲がさらに高まるようにしている。
生 活	東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の意欲を喚起する大判を活かしたダイナミックな写真や資料が多く使用されている。 ・見開き1ページに観察カードの書き方や観察の仕方などが分かりやすく「かんさつずかん」に示されている。（上p34, 35） ・強い色彩の使用を避け、紙面は落ち着いた淡い色で統一されている。 ・ユニバーサルデザインフォントを使用し、児童の読みやすさに配慮されている。 ・小単元、やくそく、マーク、記録カードなどは、定位置に固定されている。 ・幼児教育で育てたい10の姿を意識した内容の構成になっている。
音 楽	教育芸術社	<ul style="list-style-type: none"> ・表現（歌唱教材・器楽教材）と鑑賞の関連を図りながら、一題材の中にねらいに沿った教材が配列されている。 ・指導内容が精選されており、音楽の基礎・基本ともいえるべき楽譜を大切に扱っている。 ・1年間で学習した音楽を形作っている要素を、既習事項と関連付けながら振り返るページが充実している。 ・楽譜の表示が大きく、見やすいものになっている。 ・巻末の学習のまとめには、該当ページ数が表示してあり、復習しやすい作りになっている。また、学年共通の楽典事項には、当該学年の箇所が分かるよう、色を変えて表示してあり、分かりやすい。

<p>図画 工作</p>	<p>開隆堂</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各題材の目標を、資質・能力の三つの柱に基づいて設定し、3種類のマークと文で示しており、特に重点的に育てたい力には、下線を引き、色を変えて示している。 ・図画工作科の活動を通して、異学年での交流や身近な地域、社会とつながる活動を紹介することで、人との触れ合いや共生を通して造形表現を深めていく工夫がされている。 ・使用する画材や材料がイラストと名前で表されていることで、準備する物が一目で分かるように工夫されている。 ・発想や構想、鑑賞の場面において、児童の協働的で創造的な活動の場の設定があり、対話や対話を促す文が示されている。
<p>家 庭</p>	<p>東京書籍</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どの題材でも、最初に「何を学ぶのか」「なぜ学ぶのか」が明示されている。 ・どの題材も3ステップで構成されており、問題解決型の学習が展開されやすいように構成されている。また3ステップそれぞれに、「めあて」と「ふり返り」が提示されており、何をゴールに学習を進めればよいのかを児童自身が意識することができ、主体的に学習することができる。 ・基本的な技能の習得のために、「いつも確かめよう」として大きな写真が提示され、児童がいつでも自分で確かめられるようになっている。また「D」マークが14か所あり、コンテンツを利用して動画で確かめることができる。 ・「活動」マークで取り組むべき言語活動が明示されており、思考力・判断力・表現力を育成する活動が行いやすい。 ・全体を通して様々な観点から丁寧に説明されており、教科書の紙面内の情報量が豊富である。総ページ数は、A4版145ページである。 ・キャリア教育・伝統文化・防災教育・地域との関連・安全教育・ESDなど、現代的な課題の視点が分かりやすく盛り込まれている。特に情報化社会を生きる消費者教育の内容は優れている。 ・実寸大の写真を提示したり、字体にユニバーサルデザインフォントを使ったりと、特別支援教育への配慮が充実している。特別支援教育に関する校閲者は7名、1団体である。
<p>保 健</p>	<p>東京書籍</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1項目4ページ編成で、資料や写真が大きく分かりやすい。また、記入欄の数もスペースも充実している。 ・文節改行やルビ表示、カラーユニバーサル観点から配色や書体の配慮がある。 ・5・6年教科書の巻末に中学校生活に向けた目標を立てる欄がある。他学年、体育以外の学習との関連を各章の冒頭に記してある。 ・「気づく・見つける」「調べる・解決する」「深める・伝える」「まとめる・生かす」の4ステップで構成され、巻頭に学習の進め方やマークの説明が明示されており、各内容の導入時にも学習の流れが提示され、見通しを持って学習できるように編集されている。
<p>英 語</p>	<p>東京書籍</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元（ユニット）のタイトルの下に「Our Goal」という名前で、「何をどうするか」ということが記載されている。 ・各単元末にEnjoy Communicationが設定されており、具体的な単元のゴール（活動）が示されている。 ・Let's Read and Writeでは、その時間に学習した表現を用いて1文ずつ書き溜められるようになっており、Enjoy Communicationでの言語活動で無理なくそれらの表現を活用できるようになっている。また、check your stepで、いくつかの単元で学んだことを生かす課題が設定されている。 ・作ったカード等を貼るページがあり、どこにどの向きで貼ればよいか示してある。 ・別冊Picture Dictionaryには、600～700程度の単語と表現がまとめられており、活用しやすい。

道 徳	日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材に導入発問例を記載し、児童が問題意識を持って教材に入ることができるように工夫している。また、問題解決学習の具体的な手引き（展開例・話し合い方）が教材の後に記載している。 ・「げきをしたり体を動かしたりしてみましょう」というコーナーを設け、その展開例も教材の後に多く明示することで、体験的な学習の在り方を示している。 ・写真・絵・イラストなどが各教材の特質に応じて適切に配置されており、教材の内容や道徳的価値を理解するための視覚的支援となっている。 ・目次では、体験的な学習・問題解決的な学習、情報モラル等が掲載されているページを、マーク等で視覚的に掲載している。 ・生命尊重を扱うについては、全学年で2教材以上掲載している。 ・現代的な課題として目次に明確に示していると同時に、「いじめ問題」も複数教材を配置し、ユニット学習として掲載している。 ・別冊は発問に対する書き込みの欄だけでなく振り返りや発展にも対応して、幅広く使えるように工夫がされている。
-----	--------	--